

ヒアリングの実施について

(3) ヒアリングの実施

①目的

21世紀の森構想エリアにおける今後の環境学習のあり方の検討に向けて、兵庫県内及び尼崎市内の環境学習の現状及び課題、ニーズを把握するため、行政機関・企業・市民団体へのヒアリングを行った。

②調査方法

ア. 行政機関

令和4年度第2回の協議会で小・中・高の環境学習の実態調査の提案があったことをふまえて、以下4つの機関を対象に、環境学習に関する現状・課題・ニーズや、ビジョン案に対する意見をヒアリングした。

対象者	主な事業	目的	ヒアリング実施状況
兵庫県教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ひょうごSDGs スクールアワード ・環境体験事業・自然学校推進事業 	子ども達が行っている環境学習等の実態等の把握	令和5年 8月実施
兵庫県 環境部 環境政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・ひょうごエコロコプロジェクト ・ひょうごユース eco フォーラム ・ひょうご高校生環境・未来リーダー育成プロジェクト 	学生が行っている環境活動の実態等の把握	令和5年 9月実施
尼崎市 経済環境局 環境部 環境創造課	<ul style="list-style-type: none"> ・あまがさき環境オープンカレッジ推進事業（エコあまフェスタ等） ・あまがさき環境教育プログラム事業 ・環境学習プログラム紹介冊子の発行 	尼崎市内的における環境学習の実態等の把握	令和5年 8月実施
兵庫県立人と自然の博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・共生のひろば 	兵庫県内の環境活動の実態等の把握	未実施

イ. 企業・市民団体

アンケート対象者の中から、今後の展開について前向きな回答が得られた企業・市民団体等を対象に、今後、尼崎21世紀の森構想エリア内で環境学習に関して取り組みそうなことなどについてヒアリングした。

(対象者はアンケートの結果や、令和5年度第1回協議会でいただいた意見をふまえて抽出した。)

③ヒアリングのまとめ

【兵庫県教育委員会】

兵庫県内の幼稚園から高等学校及び特別支援学校までを対象に、SDGs の目標達成につながる取組を行っている学校園に顕彰する「ひょうご SDGs スクールアワード」についてヒアリングを行った。

＜ヒアリング結果＞

- ・表彰校の選考基準は、10項目あり、「SDGsに関連している」「地域資源を活用している」「活動している幼児児童生徒が活動をすることでどのような変容があったか」等についてである。選考は、大学や博物館などの専門家が務めている。
- ・活動紹介動画による審査で表彰校を決めるため、応募者同士の発表や交流の場は、特に設けられていない。
- ・表彰を受けることは、子ども達の取組への意欲が向上し、他校園が表彰校園の動画を見ることにより、SDGsに関する活動に取り組むきっかけとなる。

【兵庫県 環境部 環境政策課】

兵庫県では、ライフステージに応じた環境学習・環境教育の推進をしており、県内の幼稚園や保育所等の乳幼児や先生を対象とした「ひょうごエコロコプロジェクト」や、高校生を対象とした「ひょうご高校生環境・未来リーダー育成プロジェクト」、様々な世代が集まる「ひょうごユース eco フォーラム」についてヒアリングを行った。

＜ヒアリング結果＞

- ・「ひょうごエコロコプロジェクト」では、兵庫県立人と自然の博物館などの自然環境や幼児教育の専門家によって、乳幼児向けの環境体験プログラムが練られているため、質が高く、子どもたちにとっても楽しめる内容で、好評である。
- ・「ひょうごユース eco フォーラム」や「ひょうご高校生環境・未来リーダー育成プロジェクト」では、広く参加者を募集しているが、応募数が少ないこともあるため、教育関連機関への協力依頼や活動に熱心な学校への声かけで参加者を集めている。
- ・「ひょうごエコロコプロジェクト」では、園の先生を対象とした研修を実施しているほか、各園での環境活動事例の発表などを行う交流や情報交換の機会が設けられている。
- ・「ひょうごエコロコプロジェクト」のような乳幼児向けの環境学習の取り組みは、関西圏では先進的な取組である。
- ・「ひょうごユース eco フォーラム」の会場は、阪神地域であるため、兵庫県全域から人が集まるのが難しく、参加者は阪神地域で活動する人が多い。

【尼崎市 経済環境局 環境部 環境創造課】

自然体験や環境問題を学ぶ講座やイベントの実施、尼崎市内で環境活動をしている団体を紹介した冊子の発行等をしている「あまがさき環境オープンカレッジ（運営：NPO 法人あまがさき環境オープンカレッジ）」や、主に小学4年生を対象にしたゴミや温暖化、公害に関する出前授業の「あまがさき環境教育プログラム」、環境学習のプログラムを実施している団体や企業などを紹介する「環境学習プログラム紹介冊子」についてヒアリングを行った。

＜ヒアリング結果＞

- ・環境関連イベントを実施する際は、参加者の層を想定するのが難しい。そのため、未就学児の参加が多い場合は、企業が用意しているプログラムが参加者にとって難しすぎることもある。
- ・生きもの関連の学習はフィールドが無いと実施できないため、「環境学習プログラム紹介冊子」に紹介されているプログラムは、工作系が多い傾向にある。
- ・「あまがさき環境オープンカレッジ」では、年に1～2回、市内で活動している環境団体が集まり、テーマ別にミーティングをしている。
- ・尼崎21世紀の森構想エリア内での環境学習は、アクセス性が悪いため、学校からバス代の支援などの要望がある。
- ・「あまがさき環境教育プログラム」では、来年度から、尼崎市都市整備局土木部公園計画・21世紀の森担当が関わっている運河教育（尼崎の自然についての学習）も出前授業の1つに追加される予定である。
- ・環境学習を受ける側の意見として、教職員の方からの意見やニーズを把握することが求められる。